

編集室

* 今月の特集は M2M である。様々な雑誌、講演等でも同様の特集が組まれており、この分野に関心の高い会員にとっては本会誌ならではの情報は少ないかもしれない。しかしながら将来性のある技術そしてビジネス領域であり、技術動向の全体像を会誌としてもこの機会にまとめておきたいと考え、特にグローバルに市場展開するために不可欠なプラットフォーム技術を中心に現時点の技術動向をまとめた次第である。

* M2M 技術や IoT 技術は、自販機の販売データ、物流のトレース、河川の水位監視等、身の回りでも既に実用されておりそれ自体の新鮮さはない。しかし特定の活用に限定されており、M2M がもたらす効用のほんの一部にとどまっている。M2M の潜在的な効用を引き出すためには、個々のサービスで積み上げてきた技術の共通化、取得される情報の共有化、様々な業種関係者や利用者の知恵の融合が不可欠である。

* M2M は、今後間違いなく活用範囲が広がり、新たなサービスを生み、豊かなライフスタイルを創造する技術分野の一つである。この分野で、日本が世界をけん引し、20~30 年後においても日本が世界で存在感を示すために貢献できる技術領域の一つに育ててくれるよう、特に若手会員の方には期待している。

* 特集号の表紙は特別に編集チームリーダーが決めることができる。今回は、M2M を表す「あらゆるものがネットワークでつながる」、と日本そして若者の将来を期待して「明るく希望のある未来」をイメージしたつもりである。いかがであろうか。

* さて、私事。5 月をもって編集特別幹事を退任する。着任した際にこの編集室にも書かせて頂いたが「編集特別幹事を担当させて頂いている間は少しでも会誌の魅力向上に貢献したい」との思いで、編集委員の方々と力を合わせ取り組んできた。後任へバトンタッチすることになるが、別の立場から引き続き魅力的な会誌に貢献できればと考えている。学会事務局の皆様、編集委員の皆様、そして記事を提供して下さいました方々に、この場を借りて御礼申し上げます。

(編集特別幹事 源田浩一)

* 編集特別幹事をお引き受けしてから、早いものでもう 1 年がたとうとしています。編集の仕事は、企画を立ててから実際に記事が誌面に掲載されるまでに数か月程度かかるため、着任以後に企画された記事が少しずつ会誌に掲載されるようになったところです。

* 掲載されている記事や掲載予定の記事を眺めていると、うれしい気持ちになる反面、皆様にどれくらい興味を持って読んで頂いているのだろうか、という不安も少し湧いてきます。もちろん、面白いと思って企画しているのですが、電子情報通信学会の 3 万人もの会員の専門分野は大変多岐にわたり、全員に興味を持って読んで頂ける記事を作ることは難しいことです。

* この問題は、メディアにおけるコンテンツの企画に共通していて、大きく二つの方策が取られていると思います。一つは、できるだけ広い対象に幅広く訴求する話題を選ぶことで、もう一つは、狭い範囲の対象に強く訴求する話題を選ぶことです。これらは、どちらが良いというわけではなく、個人的には、両者がバランス良く混ざっていることが大切ではないかと思っています。

* 更に、情報・システム分野には、情報処理学会、計測自動制御学会、人工知能学会、ロボット学会等、カバーする分野が重なっている国内学会が多くある、という固有の事情もあります。旬な話題についての解説記事を書いて頂くと思って御相談すると、既に他の学会誌に書かれてしまっていて難しい、ということもしばしば起こります。

* というわけで、なかなか思うようにはゆかないことも多いではありますが、仕事の進め方にもやっと慣れてきたところですので、今後も気を抜かずに、編集委員及び学会編集出版部の皆様のお力をお借りして、興味を持って読んで頂ける記事、例えば、今話題のトピックについてもうちょっと詳しく知りたい、というようなニーズに応える記事を、できるだけたくさん掲載してゆければと思っています。引き続き御指導御鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い致します。

(編集特別幹事 麻生英樹)